

9月11日(火)周防大島町立城山小学校で、山口大学の三浦教授による2回目の防災教育講座開催

城山小学校の3年生以上の児童と保護者や地域の方々が参加して、山口大学大学院理工学研究科の三浦教授の2回目の防災教育講座を開催しました。

当日のテーマは、

- 1 津波についての理解を深める
- 2 校区の実際の地形や高さなどを見て回り、津波被害が予想される範囲や高さ等を調べる活動をおして防災意識・実践力を高めるの2点でした。

<津波の速さや地形による伝わり方>

1 津波の速さ

津波は水深が深いところでは速く、浅いところでは遅くなる。

例) 水深 4,000m → 時速 720 km (飛行機並み)
水深 2.5m → 時速 18 km (自転車並み)

2 津波の伝わり方

湾になっているところでは、湾の入り口にぶつかった波が反射して奥に進むので、湾の奥は危険。



<等高線の確認作業>

5～6名のグループに分かれて、校区内の地図の10m、20mの等高線に色付けをして高さを確認します。



<地図をもとにフィールドワーク>

等高線を色付けした地図をもとに、実際に校区を見て回り、津波被害が予想される範囲や高さ等を確認します。

1 海岸で津波の高さを確認

8月29日に国が公表した想定では、大潮の満潮時高より2m高い津波が来ると予想されています。堤防が満潮時高より80cm高い位置なのでプラス120cm、



三浦先生の胸の高さまで水がくるという想定です。

それを聞いた子どもたちは、驚きと不安が入り交じった表情になりました。

2 等高線巡検

地図の等高線を確認しながら、校区内を歩きます。その際、実際に避難する際の注意点(倒れてくる物、落ちてくる物がない等)も確認します。



3 過去の言い伝え

途中、^{ほこら} 海拔18m付近にある古い祠に立ち寄りしました。1854年に発生した安政南海地震の際にこの祠のすぐ下まで津波が来たと言い伝えられています。「この高さまで津波が来たの!」と子どもたちは驚いていました。



4 東日本大震災での最高遡上高

最後に海拔40m弱の神社の境内まで上がって来ました。東日本大震災での津波の遡上高は最高40mくらいと言われています。

神社の境内から海を望み、その高さから、今回の東日本大震災の津波の高さを想像し、また驚いていました。



フィールドワークを終えて三浦先生から

皆さんが学校にいるのは1年の内1/5です。残り4/5は家庭や地域にいます。学校にいるときは先生方と訓練を繰り返していますが、問題は家にいるときです。

今日の学習のことを家に帰って話し、家庭でも地震が起きたらどこに逃げるか、どこを逃げるか、きちんと家族で話し合っておくことが大事です。